

株式会社 華柳（多治見市）

中心市街地

活性化・産業

取組の背景

平成8年に、多治見市が中心市街地の活性化を図るために、「オリベストリート計画」を発表し、商店街関係者に協力を要請。

平成9年に、「本町筋」と「市之倉」が事業参加への意欲を表明し、本町筋は「本町周辺オリベストリート推進協議会」を設立し事業内容を検討。

本町周辺オリベストリート推進協議会は、平成10年に市に対して「組織をつくり、まちづくりを進めるべき」と提言。市は、事業の持続性を確保するとともに、補助金に頼らない運営を目指すため、株式会社を設立すべきと判断。

平成11年に、第三セクターによるまちづくり会社「(株)華柳」を設立。併せて市は駐車場の整備し、その運営を同社に委託。

平成12年には、地域振興整備公団により「たじみ創造館」が建設され、平成13年から同館の管理業務を同社が受託。

取組の概要

多治見市本町は、明治初期から昭和初期にかけて栄えてきた陶磁器問屋の建物が数多く残っていることから、これを活かした楽しい街をつかっていきたいという認識のもと、平成11年に第三セクターで「まちづくり会社」が設立された。まちづくり会社は儲けることが目的でなく、まちづくりに再投資することで地域の発展に役立てることを基本としている。

取組の内容

- ・たじみ創造館の建物とテナントの管理業務
- ・市営駐車場の管理業務
- ・本町オリイベント等の開催
- ・空き店舗と意欲ある事業者とのマッチング
- ・オリベストリート及びその界隈のマップ作成 等

成果

- ・行政、民間が一体となって「まちづくり会社」が設立され、オリベストリートで陶磁器イベント「本町オリイベント」の開催を定番化。

- ・空き店舗と意欲ある事業者とのマッチングをすることで、空き店舗情報や店舗を借りたい事業者の情報が直接入るようになり、以前よりも仲介が容易になった。
- ・オリベストリートには、アンティークな店舗が集まるようになり、少しずつではあるが賑わいが戻ってきている。
- ・18年末頃から、たじみ創造館の空室を利用して、レンタルBOX（約60cm四方の箱）を置き、そこを地元の若手陶芸家らの作品を展示・販売予定。

成果の要因

- ・まちづくり会社発足は、プロセスから地域住民が参加していたことから、同じ方向を向いて各種の事業を実施することができた。
- ・オリベストリートは、陶磁器問屋の街であり、今でも江戸時代からの商家や蔵が多く残っており、町全体がレトロなイメージが漂うなど最初から調和がとれている。

今後の課題

- ・まちづくり会社設立時の店舗オーナーの世代交代が進み、空き店舗等での新たな経営者等は、設立当時と比べて、まちづくり会社で行う事業への協力者が減少している。
- ・オリベストリートでの新規店舗のオープンは、多くが多治見市内の商店街の店舗移転であり、多治見市中心市街地全体から見れば、大きな変化はない。

行政への期待

岐阜県への観光客をオリベストリートに取り込みたい。観光パンフレットの作成、全国各地でのキャンペーン、観光コースを作る時等は、ぜひ加えてPRしてほしい。

この人にお話をうかがいました！

株式会社 華柳 代表取締役専務 加藤修己さん

調査日：平成18年11月7日（火）

調査者：商業流通課 矢島、東濃振興局 松村